

夫婦共働き世帯数は年々増加傾向にあり、今や専業主婦世帯（664万世帯、28年総務省の2倍近く（1129万世帯、同））になっています。

しかし、0〜3歳児の子どもがいる母親の就業率は低く、その原因の1つに、子どもの預け先がないことが挙げられており、多くの共働き夫婦が、働きながら安心して子育てができる環境を整備することが、わが国全体の課題となっています。

一方で、今、若い世代の中に就農を目指す人や、自然に囲まれた農的な環境を整備することが、わが国全体の課題となっています。

群馬県昭和村。赤城山麓に広がる豊かな大地の一角に野菜の生産・加工・販売を手掛けるグリーンリーフ(株)があります。同社は、平成28年8月に農業法人として全国に先駆けて事業所内託児所(※)を開設しました。

生活に関心を持つ人が増えてきており、農村地区でも子育ての環境を整えることが、担い手不足に悩む農業界にとって、新たな労働力確保のために重要となってきました。

袖谷さんの1日  
(平成29年、4月〜現在:時短中)

- 6:00 起床  
夫と優翔くんの朝食・身支度  
夫出勤
- 8:00 優翔くんと一緒に車で出社
- 8:30 優翔くんを事業所内の託児所へ
- 9:00 仕事開始
- 12:00 昼休み(制服から私服へ着替え)
- 12:10 託児所で優翔くんと一緒に食事  
(優翔くんや託児所の仲間と過ごす)
- 13:00 午後からの仕事
- 16:30 優翔くんと一緒に退社
- 17:00 夕食の準備、夫帰宅、夕食  
優翔くんと遊ぶ・寝かしつけ  
家事〜就寝



入社後すぐに免許をとったフォークリフトを自在に操り原材料を搬出入する袖谷さん



木材を国産材にこだわり、床には奥利根産のヒバを使った木の温もりを大切に託児所です。会社の敷地の真ん中にあり八角形の屋根が印象的です。



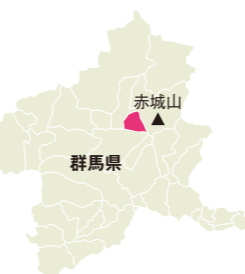
グリーンリーフ株式会社取締役社長 澤浦彰治さん

人と専任職員の3人で預かっていきます。祝日や夏休みなど長期休暇には学童も預かり、多い時には十数人が仲良く1日を過ごします。

子どもの顔が見え、何かあってもすぐ連絡がきます。先生方との距離も近く、育児の不安もなく仕事ができます。定時出勤になっても大丈夫と話します。現在、夫と子どもの3人暮らしで自宅も新築したばかり。託児所があり安心して働ける職場環境に将来の夢も膨らみます。

若い世代が働きやすい環境を

企業の農業経営の中で女性の力を積極的に活用したいと思っています。女性が出産して辞めていくのは会社にとってマイナスです。早く復帰しやすく、子育てしながら安心して働ける環境をつくるのが人材確保につながります。女性が働きやすい職場として認知され、有能な女性の雇用にもつながり定着率もよくなります。また、女性にやさしい企業として消費者にも共感を得られ、マーケティング面からも効果があると思います。有能な人材の確保で生産性を高めていくのが目的ですが、そのためには若い世代の働く環境整備が不可欠です。



群馬県昭和村  
農業法人 グリーンリーフ(株)

平成6年グリーンリーフ有限会社として法人化。14年株式会社に。20年に第47回農林水産祭で天皇杯受賞。主な業務内容はコンニャク芋やハクサイ、小松菜、ホウレンソウの有機栽培とコンニャク製品、漬物、冷凍野菜の加工。従業員数は200人、平均年齢38歳。



子どもと一緒に昼食をとる袖谷夏希さん親子と、同僚で同じく託児所を利用している野本明日美さん親子

子どもと出社し、子どもと食事し、子どもと共に育つ

— そんな働く環境を目指しました

子育てと仕事が両立できる職場づくり  
託児所を開設し働く女性を応援

農業現場で活躍する女性が増えるにつれて、女性が一層働きやすい職場環境を目指す取り組みが注目を集めています。子育てをしながら安心して働きたい、農業をもっとおしやれにしたい、農業を少しでも快適に——。女性目線が今、農業現場の在り方を変えようとしています。